

景気動向調査

業況 DI 値、サービス業 一部改善も資金繰り不安残る

令和4年10～12月 中小企業景況調査 結果報告書

当所では、藤枝市内小規模事業所の経営動向を把握するため、四半期ごとに景況調査を実施しています。

令和4年10～12月期の調査がまとまりましたので、概要を報告します。

※本調査は、製造業・建設業・卸売業・小売業・サービス業の5種200社を対象に行っています。今回の回収率65.0%

【主要な表現について】

○業況判断：調査対象企業が自らの業績に下した判断。

○DI値：(増加・好転と回答した割合) - (減少・悪化と回答した割合) 悪化すればするほどDI値は▲(マイナス)になります。

管内全産業の業況

業況判断の動向(表1)：全産業での業況は、DI値▲23.6で前回(2022年7月～9月)より6.4ポイント改善。サービス業前回▲26.7ポイントから今回▲3.2ポイントとマイナス幅を縮小しましたが、その他産業は依然として足踏み傾向にあることを示しました。

全産業売上高の推移：前回▲22.1ポイント(2022年7月～9月)から9.7ポイント改善しました。

建設業前回▲27.3ポイントから11.8ポイント悪化も、その他産業において改善傾向を示しました。

全産業資金繰りの動向：前回▲9.2ポイント(2022年7月～9月)から4.3ポイント悪化しました。

サービス業前回▲3.4ポイントから13.8ポイント悪化、その他産業は足踏み傾向を示しました。

全産業採算の動向：前回▲39.2ポイント(2022年7月～9月)から2.8ポイント改善しました。

サービス業前回▲30.0ポイントから23.5ポイント改善を示し、マイナス幅が縮小しました。

全産業雇用人員の動向：前回▲7.9ポイント(2022年7月～9月)から8.7ポイント改善しました。

製造業・卸売業が改善傾向も、建設業は依然として人手不足感が強まりました。

表1 業種別業況判断の動向

